

東京2020パラリンピック競技大会 陸上競技用備品(こん棒)

目的・ねらい

オリンピック・パラリンピック教育推進の一環、また大会参画の一つとして、パラスポーツへの更なる理解促進を目指す。

取組・活動内容

①実施時期

- 令和元年6月 : 東京2020組織委員会と協定締結
- 7月 : 制作開始
- 令和2年3月 : 制作物完成、東京2020組織委員会へ納品
- 令和3年8月～9月 : 東京2020パラリンピック競技大会で使用

②実施規模

都立工芸高校 定時制課程 インテリア科

③取組・活動内容

- ・制作にあたっては、生徒がパラスポーツやこん棒投の競技や、バリアフリーについて学び、意見を出し合いながら、こん棒を20本制作した。
- ・持ち手は、選手の手の大きさや障害、投げ方などの違いに配慮した4種類の形状とし、またこん棒には、生徒がデザインした学校名のロゴを焼き付けた。

本取組・活動の成果

- 参加した生徒からは「こん棒制作は競技内容を知ることから始まりました。使ってくださる選手の方々が、使いやすい、握りやすい、投げやすいこん棒を目指して試行錯誤を繰り返し、1本1本思いを込めて丁寧に仕上げました。学生であった私たちが、世界の平和の祭典に関われる機会をいただき大変光栄なことと感謝しております。私たちの作ったこん棒が、オリンピックスタジアムの空に選手の方の思いを乗せ大きな放物線を描く、その日を待っています。」といった充実感と期待感に満ちた感想が寄せられた。
- 東京2020大会では、生徒が制作した「こん棒」を使用して、ルザ・コザコフスカ選手(ポーランド)が世界新記録を達成し、金メダルを獲得した。

活動の様子



都立工芸高校制作のこん棒



旋盤による加工



塗装